Jazz Interview Vol.52

ニューヨークを拠点に活動中の注目の女性フルートプレーヤー！

宮本果奈【Kana Miyamoto】

2014 年から NY を拠点に活動し、共にニュースクールに通っていたキーレン・マックオウルフィーとサミー・ウェイスベルグ、そして、ヨウスケ・ナガヤマが参加し、自身のバンド“KANACEPT（カナセプト）”を結成。
昨年 1st リーダーアルバム『Spring Doze』をリリースし、初の日本ツアーのためメンバーと来日したフルートプレーヤー宮本果奈。インタビューと共に東京・池袋の Apple Jump で素晴らしいライヴも体感。休憩中や終演後に観客一人一人に話しかけるその人柄にも感動した。

【2018 年 2 月　取材・文：加瀬正之】

♪ 2 月 12 日から自身のバンド“KANACEPT”として初の日本ツアーがスタートしますが、現在の心境は？

今はとてもわくわくしています！もうメンバー揃ってこの 1 ヶ月楽しみでしょうがないという感じでリハーサルをしてきました。この KANACEPT ツアーは私にとって初めてのツアー演奏ですが、メンバーとは 2 年、3 年と演奏してきており日本でのツアーを一つの目標としてきたので、ついに夢がひとつ叶う嬉しさと、メンバーを日本に連れてくることができて色々な出会いが楽しみです！

♪ メンバーとの出会いや結成の経緯について聞かせて下さい。

KANACEPT は、最初は KANACEPTRIO と言う名前で、2012 年の冬に私が通っていたニュースクールで出会ったギターのキーレンとベースのサムと 3 人で始めたバンドでした。最初にセッションをした時にこのメンバーと音楽をしてみたいと思い、またバッハの室内楽アンサンブルのようにそれぞれがメロデックに演奏をして、どこまで即興でできるかを実験してみようというコンセプトのもと始まりました。1 年近くは月に 2~3 回リハーサルをするだけのバンドで、お休みすることもあったのですが、ふとするとまたリハーサルをし始めてバッハや器楽曲の譜読みをしたりジャズスタンダードを色々な方法で試してみては実験を重ねました。ある時私の書いた「Spring Doze」が 2 人の心にしっくりきたようで、その時に始めてバンドサウンドが決まり、2016 年頃からライヴをするようになりました。そこから段々とオリジナルを増やしたりして、2017 年にドラムの永山君を迎えて今の形になりました。

♪ 2017 年 6 月に発表された“KANACEPT”の 1st アルバム『Spring Doze』に込めた思いとコンセプトを聞かせて下さい。

このアルバムは私にとっては初めてのリーダー作品で、鼻歌をそのまま音楽にしたような“KANACEPT”らしさを存分に詰め込んだ作品にしてみました。先ほど申し上げた 3 人が同時にソロを取るスタンダードが 1 曲に、私のオリジナルとメンバーそれぞれのオリジナルが収録されています。アルバムタイトルは私たちバンドのサウンドの決め手となった「Spring Doze」という曲からとっています。アルバムのカバーアートは Sunny SunDuck Oh さんというアーティストに 4 人の音をそれぞれ絵で表現してもらう様にお願いして作りました。

♪ ニューヨークでの生活はいかがですか？

ニューヨークでの生活は刺激だらけの毎日です。セッションに行けばふらっとレジェンドが現れたり、演奏の仕事がある日に家を出る直前にその仕事がキャンセルになったり、メンバーが来られなくなったりという事もよくあります。それでも街のあちこちでは日々大小沢山のことが起きていて、好奇心をくすぐる出会いが止まないので、いつも新しいアイデアが湧いてきたり挑戦させてくれる力をくれる場所だと感じています。

♪ どのような経緯でニューヨークに渡ったのですか？

きっかけは、都内のとあるセッションでニューヨーク帰りのミュージシャンの方からニューヨークの話を聞いて、またちょうどその頃に Pekka Pylkkanen というフィンランドのサキソフォンプレーヤーとやりとりをしていた時に、「ジャズを学びたいならニューヨークにあるニュースクールに行ったらいいよ！」ということでそこに通う事に決めました。

♪ 現在のニューヨークのジャズシーンについて聞かせて下さい。

うーん、世界中から沢山のミュージシャンが集まってきていて全てのジャンルに対してプロフェッショナルなコミュニティがあるため、これがよい！となかなか言いきれません（笑）。ニューヨークでは各ジャンルの進化や、色々な音楽のスタイルが融合して新しいスタイルが生まれることがとても早いスピードで起こっていると思います。個人的に気になっているのは、ヴィブラフォンプレーヤーのジョエル・ロスです。彼もニュースクールのクラスメイトとして出会っているのですが、シカゴ出身で 2016 年頃にニューヨークに来ましたが、あっという間に有名になってしまいました。

♪ ニューヨークでお薦めのライヴハウスやカフェ／レストラン、隠れスポットやお気に入りの場所等ありますか？

私の好きな場所は Jazz Gallery でしょうか。若手からベテランまで、この人とこの人が一緒に演奏しちゃうの？！というコンテンポラリージャズファンの心をくすぐるラインナップが多く、新しい音楽の追求と発信をしているベニューだと思います。ちなみに KANACEPT のメンバー全員に聞いてみたところ、全員が最初に上げたのは、ラインナップ、音響全てにおいて Village Vanguard がダントツ人気でした。隠れ家というと私の住んでいるクーンズ地区にはテラザ 7 というお店があり、ライヴパフォーマンスは色々なものをやっていますが、そこのラテンセッションは本気のラテンでいつも熱気ムンムンです！

♪ インスタグラムで“unicornkana”として「Today's Unicorn」を掲載していますが、このプロジェクトについて聞かせて下さい。

「Today's Unicorn」はユニコーンの着ぐるみを着てニューヨークのあちこちで写真を撮ってはインスタグラムにあげるという遊びの活動です。昨年の 9 月に一度日本に完全帰国するかしないか考えていたことがあり、その時にもし日本に帰るのなら面白い記念写真を残したいという思いからハロウィンの時に買ったユニコーンを着たのが始まりでした。写真を撮ってくれている五十嵐祥子ちゃんも実はプロフェッショナルのサキソフォンプレーヤーなんです。着ぐるみだけではつまらないので現在は彼女とのユニコーンのバンド結成を目論んでいます（笑）。

♪ ジャズを志したきっかけは？

私の父は作曲家兼アレンジャーなのですが、昔からジャズファンで、高校生の時にジェレミー・スタイグとビル・エヴァンスの

『What's New』というアルバムを聴いて自分でもジャズを演奏してみたいと思ったのがきっかけです。また私が日本で通っていた東京音楽大学の同級生の中に素晴らしいジャズのミュージシャンたちがいたので、その影響を受けました。

♪ フルートを始めた経緯と魅力について聞かせて下さい。

フルートを始めたきっかけは、中学一年生の時に友達に連れられて吹奏楽部で始めました。フルートの魅力は、その音色と特有の奏法が沢山あることだと思います。演奏の仕方によって全然違う世界になるので可能性が多いことが魅力だと思います。

♪ 作曲はいつ、どのようにしているのですか？

作曲は思い立った時に書いています。いつも書き始める前にルールとテーマを決めて、構想がまとまった時に書き始めます。ちなみに「Spring Doze」の最初のメロディは紙に適当にアルファベットを書き並べたものにリズムをつけて生まれました。

♪ 小さい頃はどんな子供でどんな音楽を聴いていたのですか？

小さい頃の私は、よく学校の帰りに回り道をしたり、おばあちゃんや友達の家の近所を探検する冒険好きな子供だったそうです。音楽は物心ついた頃から名前も知らないポップスやミュージカル音楽が大好きで聴いたり歌ったりしていましたが、音楽に本格的に魅了されたきっかけは、スタジオジブリやファイナルファンタジーなどのサウンドトラックです。

♪ 大きな影響を受けた 3 枚のアルバムを挙げて下さい。

1 枚目はフルートだらけになってしまいますが、即興の世界に私を引き込んだジェスロタルのイアン・アンダーソンの『Stand Up』というアルバムです。特に影響を受けたのは「ブーレ」という曲です。高校の時のフルートの友達がリサイタルのアンコールで演奏していた曲で衝撃を受けました。

2 枚目は先ほども挙がった名前ですが、ジェレミー・スタイグの『Outlaws』というエディ・ゴメスとジェレミー・スタイグのデュオのアルバムです。アグレッシブなスウィング感と息遣いまで聴こえるフルートのサウンドに魅了されました。

3 枚目はジェイミー・バウムの『In This Life』というアルバムです。ジェイミーはニュースクール在学中に師事した先生の 1 人なのですが、コンテンポラリージャズのフルート奏者／作曲家で、ジャズフルートとしてもまたこれまでのジャズとは違ったコンテンポラリーなアプローチと音色でとても影響を受けました。彼女ももうすぐ新しいアルバムを発売するそうで、次のアルバムもとても楽しみにしています。

♪ 気になる日本人アーティスト、仲の良いアーティストは？

日本人で気になるアーティストは、ドラマーの石若駿さん。もう既にご活躍されていますが、YouTube で『Songbook』というアルバムを聴いてとても気になっています。ニューヨークで仲の良いアーティストについては、私の周りに面白いアーティストは沢山いるのですが 1 人に絞るのは難しいので、私にとってメンターであるジェイミー・バウムを挙げたいと思います。師匠だったジェイミー・バウムとは卒業後も時々やりとりしていて、フルートについての相談はもちろんアルバムのライナーノーツを書いてもらったり、また今度発売する彼女のアルバムのジャケットでは日本人アーティストの写真を使うそうで通訳のお手伝いをしたりしています。

♪ どのようなミュージシャンを目指していますか？

私にとって目標とするミュージシャンはギタリストのスティーブ・カーディナスです。彼もニュースクールで直接接することができた素晴らしいミュージシャンの 1 人なのですが、自然体で暖かみのある人柄で、無駄のない一音一音心のこもった音色の演奏と、何より話していても演奏していても相手に常に寄り添う心を忘れずに遊び心を忘れない素晴らしい方なので、まだまだ時間はかかると思いますがいつか私もそういう暖かみのあるミュージシャンになれたらと思っています。

♪ ジャンルに関わらず共演してみたいアーティストはいますか？

小曽根真さんです。私にとっていつか共演してみたいドリームミュージシャンです。

♪ 音楽以外の趣味は何ですか？

今一番力を入れていることはユニコーン撮影活動です（笑）。そして食べ歩きです。ニューヨークには世界各国からの食べ物が沢山集まっており、food festival も盛んです。またレストランウィークといって普段は食べられないニューヨーク中の高級レストランがお手頃に体験できるイベントなどもあり、楽しみがつきません！

♪ 2018 年の目標、今後挑戦してみたいこと、将来の夢について聞かせて下さい。

今年は日本ツアーを行ったので、アメリカ国内やヨーロッパツアーに行きたいと考えています。そして音楽的にもまだまた触れたことのない音楽にどんどん挑戦をしていきたいですね！

♪ 宮本さんにとって“フルート”とは？

私のアナザーヴォイスです。言葉にできない私の中の言葉を音にして表現してくれるパートナーです。

♪ 最後に本誌読者とファンの皆さんにメッセージをお願いします。

The Walker's さんは、若いアーティストからレジェンドのような有名なアーティストまで幅広い音楽の発信をしてくれる素晴らしい雑誌だと思います。今の世の中は沢山の種類に溢れていて沢山の音楽がとても早いスピードで生まれては進化していますが、それは音楽を聴いてくれる人と演奏する人の両方があって、人の文化とともに進化し続けられるものだと思います。私も音楽家としてまだまだ精進していきたいと思います。読者のみなさま、これからもどうか応援をよろしくお願いいたします！

KANACEPT official website

http://www.kanamiyamoto.com/

Spring Doze

KANACEPT

© Copyright – Kanacept

2017 年 6 月発売

宮本果奈 (fl)
キーレン・マックオウルフィー (g)
サミー・ウェイスベルグ (b)
ヨウスケ・ナガヤマ (ds)

宮本果奈率いる KANACEPT のデビューアルバム！